

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ののほな逗子駅前		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 9月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 9月 14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員や保育士に加え、言語聴覚士・リトミック講師・SSTスキルを持った職員などの専門職が在籍し、子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。	当事業所では、児童指導員や保育士に加え、言語聴覚士・リトミック講師・SSTスキルを持つ職員など多様な専門職が在籍し、それぞれの専門性を生かして子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。発語やコミュニケーション支援、音楽活動による情緒の発達促進、社会性の育成など、多角的なアプローチを実践しています。	今後は専門職間の情報共有やカンファレンスを定期化し、外部研修や地域機関との連携を積極的に取り入れ、支援の質をさらに高めています。
2	保護者の方々と密接に連携しながら、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	保護者の方々と密接に連携し、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	今後は提供記録の質をさらに高めるとともに、個別面談やフィードバックの機会を増やし、保護者の意見を積極的に取り入れながら、家庭と事業所が一体となった支援体制を強化していきます。
3	専用システムやスプレッドシートを活用し職員間の円滑な情報共有を行い、子どもたちに一貫性のある支援を提供している。	専用システムやスプレッドシートを活用し、職員間で子どもの様子や支援内容を迅速かつ正確に共有することで、一貫性のある支援を提供しています。これにより、担当者が変わっても途切れることなく継続的な支援が可能となり、子どもにとって安心できる環境を整えています。	今後は情報共有の精度を高めるため、記録内容の標準化や分析機能の活用を進め、職員間での共通理解を深めながら、支援の質をさらに向上させていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	保護者からも職員からも「必要ではないのでは。実現は難しいのでは。」との声がある。 → 子どもたちの特性上、大人数や新しい環境に馴染むことが難しい場合が多く、交流機会の設定自体に課題がある。	地域とのつながりを持つことは、子どもたちの社会性や協調性を育む上で重要であると考えており、今後は地域の公園や施設を活用した活動を積極的に企画し、地域の子どもたちと自然に関われる場を提供できるよう努めます。そのため、無理のない範囲で小規模な交流や段階的な取り組みを工夫する必要がある。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っていない。	事業所の立地や時間の捻出が要因に挙げられる。また一般開放するには子どもたちの安全確保等も課題となる。 → 子どもたちの特性から、不特定多数の参加がある場では負担が大きく、安心して過ごせる環境を優先している側面がある。	活動時間が長期休み期間などに実施し、まずは関係機関の方や顔の知れた近所の方を招待することを検討中です。そのため、地域への理解を得ながら、少人数・限定的な参加や見学など、無理のない形で地域との関わりを広げていく工夫が必要と考えています。
3			